

ドルジェ・リンチェン 57才 死亡 2012/10/23



アムド、サンチュ。午後4時頃、ウデン市場のそばの警察署付近でチベット弾圧政策に抗議する焼身を行った。その日、ラブラン僧院で数回コララを行ってから自宅の周りをきれいに掃除、そのあと警察署へ向かった。彼はサユ村の副村長で、チベット語と中国語に長け、チベットを思う心が強かったという。

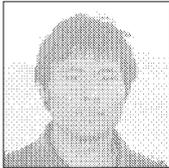
ツェポ 20才 死亡 2012/10/25

テンジン 25才 生死不明 2012/10/25



カム、ディル、バンカル郷。午後4時頃、「チベットに独立を！ダライ・ラマ法王をチベットに！チベット人は兄弟のように団結してほしい！」と叫びながら一緒に焼身を行った。テンジンは部隊によって連れ去られ生死不明。ツェポは病院へ運ばれる途中に死亡、当局は葬儀を行うことを禁じて遺体を川へ流した。2人は従兄弟同士。テンジンは2008年にインドへ亡命し、ダラムサラの学校で学んだことがある。この焼身抗議の情報を流したことを疑われた3人の僧侶が当局により連行された。

ラモ・ツェテン 24才 死亡 2012/10/26



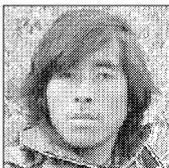
午後2時半頃、アムド、サンチュ、アチョク郷の軍駐屯地と裁判所が並ぶ路上で焼身抗議。倒れた後も手を合わせて「チベットに自由を！ダライ・ラマ法王をチベットに！」と叫んだ。幼い娘の父親。アチョク郷では2012年1月、1人のチベット人が警官に撃たれて死亡。大勢のチベット人が派出所に押し掛けて抗議のデモを行っていた。

トゥプワン・キャブ 23才 死亡 2012/10/26



アムド、サンチュ、サンコク郷。午後8時頃、「ダライ・ラマ法王をチベットに。パンチェン・ラマを含む政治犯を解放せよ！」と叫んで焼身抗議、その場で死亡した。遺体は家族のもとに運ばれた。彼は1年前にドルジェ・ドルマと結婚したばかりだった。

ドルジェ・ルンドウツプ (仏画絵師) 25才 死亡 2012/11/4



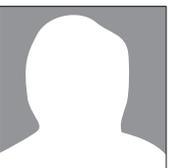
午前10時半頃、レブゴン市ロンウオ僧院前のドルマ広場で焼身抗議。二児の父。「チベットには自由が必要だ。ダライ・ラマ法王をチベットへ！今、私の願いはかなった！」と叫んだ。部隊が到着したが、人々は彼のまわりを囲んで体が燃え尽き、遺体が運ばれるまで近づけなかった。レブゴンでは2012年3月14日にジャミヤン・ベルデンが、3月17日にはソナム・タルギェが焼身抗議している。

タムディン・ツォ (主婦) 23才 死亡 2012/11/7



午後5時半頃、アムド、レブゴン地区、ドワ郷から15km離れたドロンボのケマル草原で政府のチベット政策に抗議する焼身を行った。彼女はこの数か月、焼身した人々のためにお経を唱えたり、ニユンネ(断食修行)を行ったり、灯明を捧げることに熱心だったという。5才になる息子ニンジャン・ツェリンの母親。

ツェギエ 27才 死亡 2012/11/7



午後7時すぎ、チベット自治区、ディル、バンカル郷の政府庁舎の前で焼身抗議を行った。2才と8か月の二児の父親。焼身後ナクチュの刑務所へ送られたが治療されず、拷問を受けて11月18日に死亡した。この郷では2012年10月25日に2人の若者ツェポとテンジンが焼身している。

ドルジェ (僧侶) 15才 死亡 2012/11/7

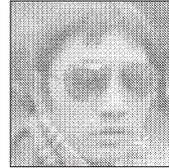
サムドゥブ (僧侶) 16才 生死不明 2012/11/7

ドルジェ・キャブ (僧侶) 16才 生死不明 2012/11/7



アムド、ンガバ州バルカム州ンガトウ・ゴマン郷。3人とモンゴシル僧院の僧侶。午後3時頃、警察署の前で「ダライ・ラマ法王をチベットに！チベットに自由を！」と叫び、3人同時に焼身抗議を行った。ドルジェはその場で死亡し、残る二人は警官によって病院へ運ばれたが生死は不明。ンガトウ・ゴマン郷では、2008年にレクシェという老僧が中国政府の弾圧に耐えきれず自殺している。

ケルサン・ジンパ (元僧侶) 18才 死亡 2012/11/8



前日に焼身したタムディン・ツォと同じ地区出身の遊牧民で元・ロンウオ僧院の僧侶。午後4時半頃、レブゴンのロンウオ僧院前で焼身抗議。「民族は平等であるべきだ。チベット語が広く使われるべきだ。ダライ・ラマ法王はチベットにお戻りになるべきだ。私はチベットの自由獲得のために焼身を行う」という遺書を残した。また、翌9日には、レブゴンで続く焼身抗議を受けてチベット人学生による大規模なデモ行進が行われた。

ゴンポ・ツェリン 18才 死亡 2012/11/10



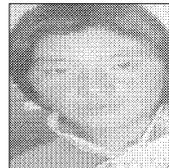
アムド、ケンロ地区、ツォエのルシュ郷。午後2時頃、ルシュ僧院境内で「民族には自由が必要だ。言語の自由が必要だ。ダライ・ラマ法王をチベットに！」と叫んで焼身抗議を行った。中学校では品行や学業の良さで賞を授与されていた。2011年末にドクモ・チュクと結婚したばかりだった。ツォエでは10月にもタムディン・ドルジェらが政府のチベット政策に焼身抗議を行い、死亡している。

ニンカル・タシ 24才 死亡 2012/11/12



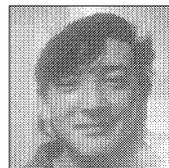
アムド、レブゴン地区のドワ郷。午後3時頃、ドワ郷の草原で焼身抗議。同じ草原で11月7日にタムディン・ツォが焼身している。当日、中央政府から役人が来て集会が開かれ「焼身は違法行為」と演説をしている最中のことだった。彼は「チベット人には自由と独立が必要。母語を学ぶ自由が必要だ」と訴え、中国政府に抗議するために焼身すると遺言を残していた。

ニンチャク・ブン 18才 死亡 2012/11/12



アムド、レブゴン。午後7時すぎ、ドワ郷の政府庁舎前で焼身抗議し、その場で死亡した。遺体は当局に奪われることなく直ぐにドワ僧院内に運ばれ、法要が営まれた。最近、ドワ郷ではダライ・ラマ法王の写真を掲げることを禁ずる通達がなされ、地元では反感が広がっていた。

カンブム・ギエル 18才 死亡 2012/11/15



アムド、レブゴン。午前11時頃、ギエルポ・ルチュ郷のコンセンド(穴の開いた岩)と呼ばれる場所で焼身抗議、その場で死亡した。その後、僧侶と一般のチベット人数百人が現場に集まって葬儀が行われた。

ティンジン・ドルマ 23才 死亡 2012/11/15



正午頃、アムド、レブゴン地区、ツェンモ郷ゴゲ村のお堂の前で、中国政府に対する焼身抗議を行い、その場で死亡した。夫は漢人で、夫婦仲は良く、ともに農業を営んでいた。当日、彼女がガソリンを購入したことを知った父親は娘を探したが、すでに死亡したあとだった。